

小・中・高等学校での

消費者教育授業実践事例集IX



クーリング・オフ



令和4・5年度 柏市消費者教育推進連絡会

活 用 に あ た っ て

柏市消費生活センターでは、「自立した消費者の育成」を目標に、柏市教育委員会と連携して「柏市消費者教育推進連絡会」（以下連絡会という）を設置しています。発足は1991年5月、すでに33年目になります。

メンバーは、柏市教育委員会指導課長、担当指導主事及び小中高校教員、さらに消費者教育相談員（消費生活センター職員）から構成されています。連絡会の委員は、家庭科（小学校高学年）、社会科（公民）、情報や特別支援担当など様々です。

学校教育における消費者教育の課題としては、

- ①成人年齢が引き下げられ、18歳から未成年者取消権を損失することになり、消費者被害が拡大することへの懸念。
- ②デジタル化の進展により、インターネット通販の取引が容易になった一方で、消費者トラブルが複雑化。
- ③SDGsが進む中、食品ロス削減やサステナブルファッションなどのエシカル消費の推奨。

等があげられます。

さらに、消費者教育を進展させるためには、授業時間不足、教員の多忙化や研修機会不足、参考とする教材や指導法不足、教科間の連携の難しさ等を解消していく必要があります。

そこで、連絡委員の先生方が自校で実践した授業の指導計画を掲載し、少しでも指導の参考に役立てていただきたいと思いますと考えています。

資料については、柏市教育委員会ポータルサイトに掲載させていただいております。また、過去の事例につきましても、「柏市消費者教育ポータルサイト」にも掲載していますので、ご自由にダウンロードしてご活用ください。

柏市消費生活センター 消費者教育相談員 小川春利

目 次

小学校

1 田中北小学校 6年 家庭（道德）「こんなときどうする？」

6種類のトマトの選び方から目的にあった
《金額，量，（形・大きさ），産地（生産者），色，栄養素（リコピン）》1つを選択する学習



2 酒井根小学校 6年 家庭

「こんだてを工夫して」（学校栄養士と連携）

学校給食の1食分を栄養バランス（主食・主菜・副菜），季節の食材を活用するなどの工夫をして，限られたコストで献立を作成する学習

3 十余二小学校 6年 家庭・キャリア

「未来をイメージしてみよう。」

柏市で将来一人暮らしをする場合，身近なデータを基に，どのくらいの支出あるかに気付く学習

4 柏の葉小学校 6年 自立活動 「よく見て考えよう」

特別支援学級の6年生を対象に，

①よく見ることは大切 ②いろいろな見方がある ③見てすぐ判断せずによく考える事 を踏まえ，校外学習に持っていくおやつの買い物につなげた学習

5 逆井中学校 3年 社会（公民）消費生活と経済

「消費者の権利を守るために」

クーリングオフや消費者契約法等を学んだ後、自分が「SNSを介したトラブル」「ワンクリック請求」などに巻き込まれた時の解決方法を、グループワークをとおして考え、将来自立した消費者になるためにはどうしたらよいかを学ぶ学習



6 松葉中学校 3年 社会（公民）「消費生活と市場経済」

生徒一人ひとりが手に入れたいものから、消費者保護についての法令や制度について理解し、どうしたらより良い契約と消費をしていけるかを考える学習

7 豊四季中学校 2年 社会 「地域の在り方」

10年後の柏市の姿を想像しながら、SDGsの視点に立ち、「柏市プラスチック・スマート宣言」等の取り組みを理解したうえで、自分たちが今からできる事を考える学習

8 風早中学校 2年 社会（地理）

「自然災害と防災・減災への取り組み」

～千葉県内に移住するなら、どんな点に気を付けたらいいの？～

日本で起こる自然災害に対して、防災・減災の視点に立ち、将来千葉県内のどんな土地を選ぶかを考える学習

高等学校

9 柏市立柏高等学校 3年 社会と情報

「情報社会における法と個人の責任」

（弁護士・消費者相談員と連携）

日常的に活用しているスマホ等から個人情報の重要性和セキュリティ対策を知り，また情報漏えいしてしまった場合の対処法を理解する学習

10 千葉県立東葛飾高等学校 2年 家庭 「食生活をつくる」



フードファディズムに落とし込む側（だます側）の視点に立って，ターゲットを絞りながら，誇大広告・キャッチコピーを工夫して作成し，今後の食生活の進め方を考える学習

消費者教育授業実践計画書／報告書

実 施 予 定 日	令和 5年 11月 24日 (金)		
授業名	こんなときどうする？		
実 施 校	柏市立 田中北小学校		
学 年 / 教 科 等	第 6 学年	教科等：家庭科 (道徳)	
指 導 者	難波 由伎		

1. 題材(単元) について

(1) 題材(単元) の設定について

本学級の児童は、普段の授業の様子から進んで相談したり協力したりすることができる。その一方で、6 学年ということもあり、友だちに合わせて行動する児童も増えつつあり、自ら情報を集めて意思決定する場が限られているようにも感じる。児童にとって、今後一人で意思決定する場面が増えていくことが予想される。「意思決定」は消費者教育の要であることから、各教科の授業や生活面においても、児童が自分で意思決定する場を設けていくべきであると考えます。

本単元では、「消費者教育」を言葉として教え込むのではなく、身近な素材、家庭科の学習を通して複数の情報を比較したり、友達や先生と意見交換をしたりすることを通して、意思決定（選択）することの難しさや大切さに気付かせたい。

また、本時では、児童が選択した理由を明確にできるよう、あらかじめ選択肢（立場）を提示しておく。友達や先生と意見交換をする中で、途中で選択が変わったり、迷ったりなど、自分の考えが深まるよう、様々な立場の児童同士とも交流できるようにする。

(2) 目標

- 目的、物の選び方、買い方を考え適切に購入しようとしている。
(家庭生活についての知識・技能)
- 消費生活情報の目的や特徴、選択の大切さ・難しさを理解しようとしている。
(家庭科への主体的に取り組む関心・意欲・態度)
- 友だちや先生に相談することを通して、選択した理由を明確にすることができる。
(消費者教育の視点)

2. 本時

(1) 目標

- 目的、物の選び方、買い方を考え適切に購入しようとしている。
(家庭生活についての知識・技能)
- 消費生活情報の目的や特徴、選択の大切さ・難しさを理解しようとしている。
(家庭科への主体的に取り組む関心・意欲・態度)
- 友だちや先生に相談することを通して、選択した理由を明確にすることができる。
(消費者教育の視点)

(2)展開

時配 (分)	指導内容・学習活動	指導上の留意点 (■消費者教育の視点・◎評価)	備考
見出す 5分	1. 本時の学習問題を知る 場面設定：調理実習の買い物 同じ商品がいくつも並んでいる 商品を選ばなくてはいけない。 複数の商品から何を選ぶか。	■児童にとって身近な素材として、調理実習で使用する班が多かったトマトを選んだ。	
	◎同じようなものがあるとき、どうしたら上手な買い物ができるか考えよう。		
自分で取り組む 10分	2. 商品の選び方について考える。 商品を購入する目的をおさえたうえで ・金額 ・量（形・大きさ） ・産地（作った人がわかる） ・色 ・栄養価（リコピン） がそれぞれ異なる6つの商品を用意する。 ①6つの商品から目的にあった商品を1つ選択する。 ②なぜ①の商品を選択したのか、その理由をワークシートに書く。	■ワークシートの表をもとに、5つの情報を比較しながら、目的にあった商品を6つの中から選択する。 ■選択する難しさについて気付かせたい。	・ワークシート
広げ深める 25分	3. トマトの選び方について友達と話し合ったり、実物を比較したりして自分の選択や考えを深める。 (1)話し合いを通して ・グループ ・調理実習の班 など (2)実物や資料を通して ・3面ホワイトボードを使って 実物や資料を比較する ・自由に商品見たり、話したりする	■児童同士で話し合うことにより、選択した理由を再確認したり、違う理由に気付いたりする。 ■違う商品を選択した児童同士で話し合うことにより、自分とは違う、他の選択の良さについて気付かせたい。その結果、困ったり迷ったり（葛藤）したとき相談することの良さにも気付かせたい。 ■実物や商品に関連する資料を通して、商品についてよく知ることの大切さ、自分の目で見ることの大切さに気付かせたい。	・3面ホワイトボード（資料） ・実物

ま と め あ げ る 5 分	4. まとめ 様々な活動を通して、最終的に1つ選択する。 ①6つの商品から目的にあった商品を1つ選択する。 ②なぜ①の商品を選択したのか、その理由をワークシートに書く。 ③全体で共有する。 5. 授業を通しての感想・ふりかえり ・どんなことを考えながら商品を選択したのかワークシートに自分の考えを書く。	・友達と伝え合う活動を通して、意見が変わった児童に対しては、どのような理由に共感して、意見を変えたのかもワークシートに書いてもらう。	
--------------------------------------	--	---	--

(3)使用予定教材・資料等

- ①金額、量（形・大きさ）、産地（生産者）、色、栄養価（リコピン）がそれぞれ異なる6つの商品を比較できる表：スライド・プロジェクター
- ②商品に関連する資料：3面ホワイトボードに掲示
- ③ワークシート
- ④実物：トマト6種類 3面ホワイトボードのかごを設置

4. 実践報告

(1)児童生徒の様子・変容

今回、「消費者教育」を通して児童全員が複数の情報を比較し、葛藤しながら意思決定するという経験をできたという児童の活動の様子、ワークシートから見とることができた。友達の意見や資料、実物をもとに、買い物をするときに「何を重視すべきか」を児童一人一人がよく考え伝えることができていた。また、普段算数の授業で計算が進まない児童が、複数の商品を検討する際にワークシートに筆算する姿が見られた。消費者教育を通して、今までの学習を児童自らが生かす場面を設定できたと感じている。

(2)成果と課題

○成果

本時では、①複数の商品を表で比較 ②友達との意見交換 ③複数の商品を資料、実物で比較 ④最終決定の4段階で展開した。複数の商品、複数の情報を組み合わせながら、どれが1番よい買い物なのかを友達やT2の栄養士と相談しながら、最終的に全員が意思決定することができた。また、児童の中にはネットですぐに買える時代だけれど、実物を見ることの大切さに気付いた児童が多くいたり、友達の意見を聞いて自分にはない視点を持っていることに驚いたと振り返ったりする児童もいた。何気なく手にとった商品がどんな情報を持っているのか、これから詳しく知る必要があるとまとめた児童もいた。

○課題

学習問題が「上手な買い物」であったが、どれを買っても間違いではなかったため「納得する買い物」の方が一人ひとりにとって適切な学習問題であった。

消費者教育授業実践計画書／報告書

実施予定日	令和5年12月6日（水）3校時	
単元名	こんだてを工夫して	
実施校	柏市立酒井根小学校	
学年／教科等	第6学年	教科等：家庭科
指導者	中川 優香	

1. 単元について

(1)単元の設定について

本単元は、学習指導要領解説の内容「B 衣食住の生活（3）栄養を考えた食事ア（イ）（ウ），イ」を受けて設定された題材であり，栄養を考えた食事について，課題をもって1食分の献立作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，栄養のバランスを考えた1食分の献立を工夫することができるようにすることをねらいとしている。

栄養バランスを考えた献立という視点だけでなく，「どんな献立が給食に出ると，『食べたい!』と感じるか」といった，消費者的目線になることで，彩りや食べ合わせにも課題をもちながら，献立の工夫をすることができると考えた。

また，給食の献立を考えるということは，全校児童に食べてもらうことになる。そのため，注意事項や，1食分の値段等も考えながら献立を作成することが必要になる。そこで，給食について情報収集をするために学校栄養職員に質疑する時間をつくったり，考えた献立をクラス内でプレゼンテーションをし合うときには同席してもらったりするなど，学校栄養職員と連携を図りながら学習を進めていく。

(2)目標

- 献立を構成する要素や1食分の献立作成の方法を理解できる。 [知識及び技能]
- 1食分の献立を作成したり，作成した献立の課題を見つけ，解決を目指して自分なりに工夫したりすることができる。 [思考力，判断力，表現力等]
- 日常の食事に関心を持ち，自分の食生活をよりよくしようすることができる。 [学びに向かう力，人間性等]

2. 指導計画

時	指導内容	消費者教育の視点での目標
1	○自分がどのように食事を選んでいるのかを振り返り，献立をなぜ立てるのか考える。 ○1食分の献立を立て，全校児童が食事をするために必要なことを考える。 ○献立の立て方を考える。	○普段，どのような食事をとっているか振り返り，バランスの良い食事をとることの大切さを理解することができる。 [知識・技能]
2	○学校栄養職員から，献立を考えたときの注意や願いを聞いたり，質問をしたりして，献立の構想を練る。	○「酒井根小学校の全校児童に給食を食べてもらう」という意識をもち，使う食材や，値段，調理法について考えたり，質問したりすることができる。

		[思考・判断・表現]
3・4	○学校栄養職員の話をもとに、栄養バランス表と、プレゼンテーション用のスライドを作成する。	○栄養バランスなどを考えて食品を組み合わせ、1食分の献立を考えることができる。 [思考・判断・表現]
5 (本時)	○「献立を考えるときの観点」を確認しながら、バランスのとれた1食分の献立を考える。 ○班の中で一人一人が考えた献立を説明し合い、より良くするにはどのようにしたら良いか互いに出し合う。	○主食、主菜、副菜の組み合わせで1食分の食事が構成されていることがわかり、1食分の献立作成の方法について理解することができる。 [知識・技能] ○栄養バランスなどを考えて食品を組み合わせ、1食分の献立をよりよくすることができる。 [思考・判断・表現] ○互いの献立をよりよくするために、話し合おうとしている。 [主体的に学習に取り組む態度]
6	○班の中で献立の改善点を話し合ったり、内容を検討し合ったりして、提案する献立を決定する。	○食べる側の目線になり、一汁三菜で考えられているか、「食べたい」という気持ちになるか、班で話し合い課題を解決する。 [思考・判断・表現]
7	○給食の献立をクラス内で相互にプレゼンテーションするための資料を作成する。	○栄養バランスなどを考えた食品の組み合わせを、わかりやすく資料にまとめる。 [思考・判断・表現]
8	○考えた献立をクラス内で相互にプレゼンテーションし、給食として採用できるものを選んだり、お互いに献立を相互評価したりする。	○他の班が考えた献立に関心をもち、実際に食べる側の目線になって評価をしようとしている。 [主体的に学習に取り組む態度]
9	○家族とともに楽しく食べるために、マナーや食卓など食事の仕方について考え、工夫できることをまとめる。	○日常の食事に関心をもち、自分の食生活をよりよくしようとしている。 [主体的に学習に取り組む態度]

3. 本時

(1) 目標

○主食、主菜、副菜の組み合わせで1食分の食事が構成されていることがわかり、1食分の献立を作成の方法について理解することができる。

[知識及び技能]

○栄養バランスなどを考えて食品を組み合わせ、1食分の献立をよりよくすることができる。

[思考力、判断力、表現力等]

○互いの献立をよりよくしようとするために、話し合おうとしている。

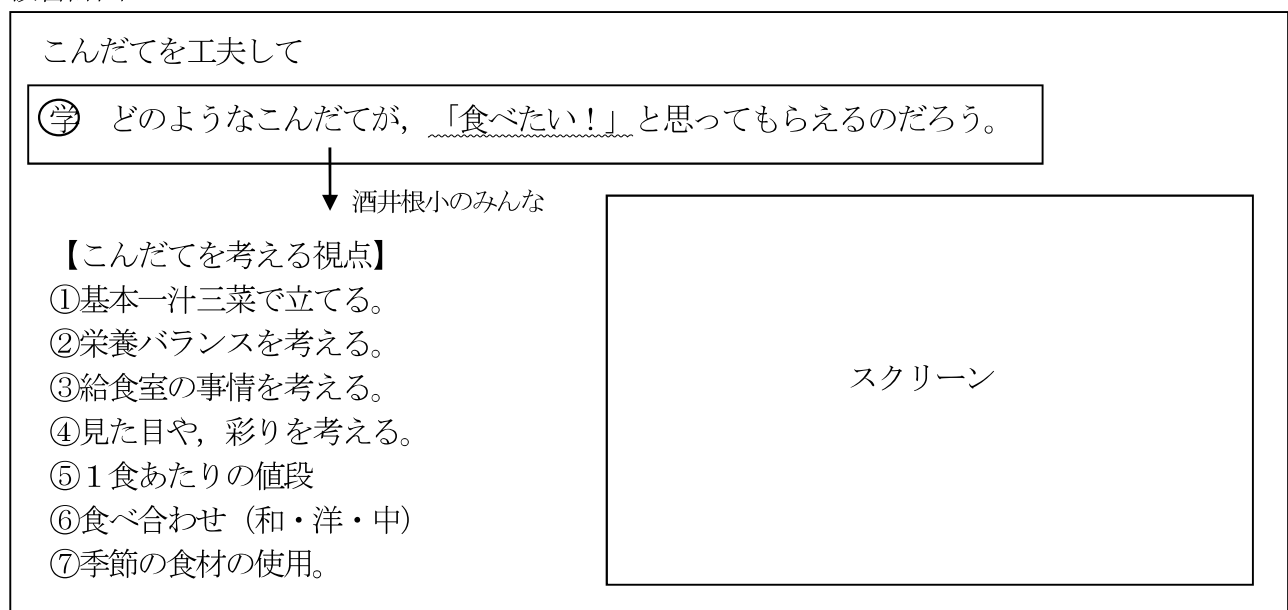
[学びに向かう力、人間性等]

(2)展開

時配 (分)	指導内容・学習活動	指導上の留意点 (■消費者教育の視点・◎評価)	備 考
見 出 す 5 分	1. 前時までの学習内容の振り返り ○給食の写真を見ながら、学校栄養職員から聞いた話の振り返りをする。 ○献立の構成は主食、主菜、副菜でできている。 ○一汁三菜が日本の伝統。 →栄養バランスが良いから。 ○3つの食品グループで考える。	■学校栄養職員の話を思い出し、献立を作成するときの注意や、どんな願いを込めて献立を作っているか、メモをもとに確認をする。	○ノート ○プロジェクター ○給食の写真
学 どのようなこんだてを、「食べたい!」と思えるだろう。			
自 分 で 取 り 組 む 15 分	2. 栄養バランスを確認しながら、1食分の献立を考える。 【献立を考えたときの観点】 ①基本一汁三菜で立てる。 ②栄養バランスを考える。 ③給食のルールを振り返る。 ④見た目や、彩りを考える。 ⑤調理バランス（ゆでる、焼くなど） ⑥味付けのバランス（塩味、甘味など） ⑦季節の食材の使用。 ◎①～⑦を踏まえた上で消費者的目線になって「食べたい」と思えるか考える。 ○考えた献立をプレゼンするために、自分のスライドを確認する。 ○スプレッドシートにバランスチェック表を貼り、考えた献立の栄養素がバランスよくなっているか確かめながら献立づくりをする。 ○献立を考え終わったら、アピールポイントや、献立のキャッチコピーを考える。	■提供する相手が酒井根小学校の全校児童であることを改めて確認し、全員が常に意識できるように、黒板に大きく掲示する。 ■献立を考えたときの観点を確認しながら、献立を考える。 ■酒井根小学校の全校児童が「食べたい」思うかどうか、自分が考えた献立を客観的に見る。 ■考えが思い浮かばない児童には、実際の献立表を渡し、どのような食材や調理方法があるか、確認をして、参考にする。 ■班での共有に向けて、意識して考えたことや、相手のことを考えて組み合わせた食材等を説明できるように、文章を書かせる。 ◎主食、主菜、副菜の組み合わせで1食分の食事が構成されることがわかり、1食分の献立作成の方法について理解することができる。 [知識・技能]	○献立を考えたときの観定の掲示 (短冊) ○スライド ○スプレッドシート ○献立表
広 げ 深 め	3. 考えた献立を共有し、修正する。 ○タブレット端末を見せながら、考えた献立を説明する。 【発表の手順】 ① 献立名やキャッチコピーの紹介	■お互いの献立を評価するときには、献立を考えたときの視点を確認しながら評価する。 ■班の中で1つに検討するとき、	○スライド ○ドライブ

る 15 分	② 主食（具材や栄養バランスの説明） ③ 主菜（具材や栄養バランスの説明） ④ 副菜（具材や栄養バランスの説明） ⑤ アピールポイント ○観点をもとに、友達の給食を評価する。（スライドのコメント機能） ○友達が重視して考えた項目についてコメントをする。 ○自分から悩んでいることや、アドバイスをもらいたいことを聞く。	自分が食べたいではなく、「全校児童が食べたい」と思えるものは何か、根拠をもって説明したり、選んだりするよう声をかける。 ◎栄養バランスなどを考えて食品を組み合わせ、1食分の献立をよりよくすることができる。 [思考・判断・表現] ◎献立をよりよくしようとするために、話し合おうとしている。 [主体的に取り組む態度]	
ま と め あ げ る 5 分	4. 本時の振り返りをする。 【振り返りの観点】 ○観点に沿って、ストリームに振り返りを載せる。 ①どのように献立を考えたか。 ②友達同士で共有をして気が付いたことや、改善したいと思ったことは何か。 ○次回は加除修正を行い、班の中で献立を1つに絞ったり、友達同士の献立を組み合わせたりして、プレゼンテーションする献立を決めることを伝える。	■自分がどのような視点で献立を考えたのか、わかりやすいようにまとめる。	○スライド ○スプレッドシート ○クラスルーム

板書計画



(3)使用予定教材・資料等

- わたしたちの家庭科5・6（開隆堂）
- 給食の写真（導入で使用）
- スクリーン
- デジタル端末（スプレッドシート，スライド，ドライブ）

4. 実践報告

(1)児童生徒の様子・変容

本単元を開始した当初は、自分が食べたい献立について考えたり、友達に話したりする姿が多く見られた。しかし、学校栄養職員から献立を考える側が大切にしている話を聞いたことをきっかけに「酒井根小学校のみんなが食べる給食を考える」ということに意識が向いた。本時の展開の際にも「それならみんなおいしいと思う」「この給食はみんな好きだ」などといった、相手意識をもった発言が多くなった。また、本単元を行ったことで、給食を作る側と食べる側の両方の立場になって思考を働かせることができた。

(2)成果と課題

○成果

本単元の目標は、献立を構成する要素や1食分の献立作成の方法を理解すること（知識及び技能）、1食分の献立を作成したり、作成したこんだての課題を見つけ、解決を目指して自分なりに工夫したりすることができること（思考力、判断力、表現力等）である。そこに、「酒井根小学校全校児童が食べたいと思う献立を考える」という、消費者教育的視点を加えた。この視点があつたことにより、「野菜は苦手な人でも食べやすいように、小さく切ってもらおう」「たくさんの食材をおいしく食べてもらうために、あんかけにしよう」など、調理方法の工夫をプレゼンに入れる児童もいた。

○課題

一人一人が「酒井根小のみんなが食べたいと思えるもの」という観点で考えたため、1つに絞ることが難しい。グループで学校栄養職員にプレゼンテーションをするのであれば、始めから少人数でこんだてを考える活動の方が望ましい。

スプレッドシートでの栄養バランスチェック表やスライドでのプレゼンテーションなど、2時間で単元計画を立てていた。しかし、実際は授業時間外も作成時間を1時間追加し、全3時間でプレゼンテーション資料の準備をした。時間内にできるよう内容を検討する必要がある。

消費者教育授業実践計画書／報告書

実 施 予 定 日	令和5年12月12日（ 火 ）		
題材(単元)名	未来をイメージしてみよう。		
実 施 校	柏市立十余二小学校		
学 年 / 教 科 等	第6学年	教科等：家庭科・キャリア学習	
指 導 者	矢野 哲平		

1. 題材(単元) について

(1) 題材(単元) の設定について

キャリア教育を進めていく中で、まだまだ現実と自分の考える未来の姿にギャップを感じたり、明確なイメージを持つことができていなかったりする児童が多くいると感じている。そこで、今回の題材は身近な例を提示しながら、未来の自分を消費者の視点で考え、具体的な将来の姿をイメージする力を養うために設定した。

(2) 目標

今日の授業実践の目指すところは消費者教育の体系イメージマップでは、「生活を設計・管理する能力」の育成に該当する。一ヶ月間に柏市での生活で発生する支出や、それに対しての必要な収入などについて、身近な職業の事例や自分の未来を想像して、そこに至るための過程を考えさせたい。

2. 本時

(1) 目標

- ・身近なデータを基に、将来の姿を想像する中で、生活するにはどのくらいの支出があるのかに気付く。

(2) 展開

時配 (分)	学習活動	指導上の留意点 (■消費者教育の視点)	教材・資料
見出す 5分	1, 柏市で将来、ひとり暮らしをする場合 どの位のお金がかかるのか予想する。 ↓ 月の生活費指針につなげる	■消費者の視点から視野を広げる ・自由に予想をさせて、色々な意見を出させるようにする。	
	㊦ 自分の未来の生活をイメージしてみよう。		

自分で取り組む 15分	2, 生活には何が必要なのかを考える ・でた意見に対して柏市のデータを確認しながら、支出を計算する。 ・「ライフライン」「支出」などの用語に触れながら、自分の将来にかかる支出をイメージする。	・ライフライン関係のもの (部屋・ガス・電気・水道・食費 衣服・通信費) - それ以外 (医療費・ゲームなどの遊興費 旅行の交通費・贅沢品・嗜好品) の二つにわけて考えるようにする。 ・様々なものを消費者として消費していることをつかませる。	・ワークシート ・画像 ・電卓
広げ深める 20分	3, 支出のための収入を考える。 ・身近なものとして、コンビニのアルバイトの例で考える。 4, 自分の知っている仕事を発表する。 ・知っているもの、将来なりたいもの 両親や親せき・知り合いなどが就いている仕事を発表する。 5, 様々な年収・月収について取材している動画を見る	・コンビニが駄目だということにならないように留意する。 ・必ずしも収入が多い＝素晴らしいではないことに注意する。 ・色々な仕事を確認する ・動画で色々な仕事の月収や年収を知り、自分の将来を考える	・動画 ・電卓
まとめあげる 5分	6, 感想・振り返りを書き、発表する。 ・支出・収入を知って、自分の将来設計をどのように考えたかを発表する	・友達の見解を聞きながら、将来の自分の姿を考える。	・ワークシート

(3)使用予定教材・資料等

- ・ワークシート
- ・プロジェクター
- ・動画（ニュース動画を編集した自作のもの）
- ・電卓（支出・収入の計算用）

4. 実践報告

(1) 児童生徒の様子・変容

最初に柏市で1か月、一人暮らしをする際にかかる支出を予想させたところ、3万～70万までと児童の予想にとっても差が生じた。ところが、一ヶ月の家賃・電気・ガス・水道代などのライフラインにかかる費用や、衣服や趣味などの費用を考えていくとともに、自分の支出にかかる感覚が、だんだん現実と一致する様子が見られ、それに伴った収入や仕事を考えることのきっかけになった。

(2) 成果と課題

○成果

児童の支出に関しての感覚が、現実近づいた。これが一番の成果だと感じた。最初の予想で3万円と予想した児童は、計算をしていく中でまったくお金が足りないことに気づき、70万と予想した児童は、そんなに支出することがないのに気づくとともに、収入として70万を得るためにはどういった仕事があるのかを考えることができた。

○課題

内容が広域にわたるので、だいぶ削ったり、絞ったりした授業展開になってしまった。1時間の単発の授業では、触れる内容に限界があった。ここから、職業・キャリア学習や税金・契約などに広げていくことが大切だと思うので、この授業をベースにもっと発展的に様々な分野と絡めて授業展開を考えていくことが大切だと感じた。

消費者教育授業実践計画書／報告書

実 施 予 定 日	令和5年12月7日（木）		
題材(単元)名	よく見て考えよう		
実 施 校	柏市立柏の葉小学校		
学 年 / 教 科 等	ひまわり・なのはな学級 6年		教科等：自立活動
指 導 者	池田 真菜		

1. 題材(単元) について

(1) 題材(単元) の設定について

本校には知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級があり、26名が在籍している。今回は、卒業まで約3ヵ月となり、将来へ向けて意識し始める6年生5名の児童を対象に行う。

児童は、与えられた情報をじっくり見たり考えたりしないで判断したり、自分が考えていることと相手が考えていることは同じだと決めつけて一方的なコミュニケーションをとってしまったりする場面がある。

そこで、まずはよく見ることやよく考えるという、批判的な思考力が必要だと考えた。これからの学習場面や友達関係など、日常生活においてよく見ることや考えることは大切であることをこの学習を通して学んで欲しい。そして、将来的に消費者トラブルに巻き込まれずに、賢い消費者として生きていく第一歩になればと思い、設定した。

絵本1の『よくみると』では、一瞬、絵を見るとオムライスがたくさん並んでいる絵に見える。しかし、よく見るとその絵は、黄色の鳥（たまごに見える）、赤色の鳥（ケチャップに見える）、緑色の鳥（ブロッコリーに見える）の3羽で構成されている。一瞬見ただけではオムライスに見えるが、よく見るとそこにはオムライスではなく3羽の鳥がいるという絵本を用いて、ぱっと見ただけで決めつけずに、「よく見ることは大切」だと捉えさせたい。

絵本2の『くるっとだーれ?』では、絵本を正面から見るのと、逆さまから見るのでは、見えてくる生き物が異なる絵本である（例：ペンギンに見えるイラストが、逆さまにするとウシに見える等）。このことから、1つの情報からも、「いろいろな見方がある」ことに気づかせたい。

「よく見ることは大切」「いろいろな見方がある」という学習をした後に、さらにもう1つステップを上げて、実際に消費者として生きていく上で欠かせない買い物場面を用いて、「見てすぐ判断せずによく考える」ことを意識させたい。

そして、授業展開の一週間後には、特別支援学級での校外学習を控えていることから、本時をより実践的にその視点を応用する機会としたい。そこへ持っていく菓子の購入の場面に絞り、商品を購入する際に、消費者としてどんなところを注意して見て考え、判断すればよいかを児童と一緒に考えていく。

このように、①「よく見ることは大切」②「いろいろな見方がある」③「見てすぐ判断せずによく考える」ことを様々な教材を提示して、見て考えられるように支援していく。

また、消費者としての意識をより深められるように、自分だけで学習を進めるのではなく、自分で考えたことを相手に伝えたり、相手の話を聞いたりする場面を取り入れて、自分と考えが同じこともあれば異なることもあることに気付いてもらいたい。

以上のことから、「友達の意見や考えを聞き、自分の考えを述べることができる」という自立活動の目標と「身のまわりの生活情報に対し、よく見て考えようとしている」という消費者の視

点からの目標を立てた。

「友達の意見や考えを聞き、自分の考えを述べることができる」では、絵本1や2のイラストを見たときの見方を相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする姿を目指した。また、菓子の購入の場面においても、どんなところに気をつけて購入するのか、相手と一緒に考えながら学習を進められるようにしたい。

「身のまわりの生活情報に対し、よく見て考えようとしている」では、学習を通して注意深く見たり考えたりして分かったことを発言したり振り返りシートに記述したりできるように進めていく。

(2)消費者教育の目標

消費者教育の体系イメージマップでは、「情報とメディア」の「消費生活情報に対する批判的思考力」に該当する。

本題材の指導では、消費者生活情報を評価、選択して賢い消費者として生きていく将来を見据えて、①「よく見ることは大切」②「いろいろな見方がある」③「見てすぐ判断せずによく考える」ことを意識できるようにしていく。

2. 本時

(1)目標

○友達の意見や考えを聞き、自分の考えを述べることができる。

(自立活動 内容6 コミュニケーション (5) 状況に応じたコミュニケーション)

○身のまわりの生活情報に対し、よく見て考えようとしている。(消費者教育の視点)

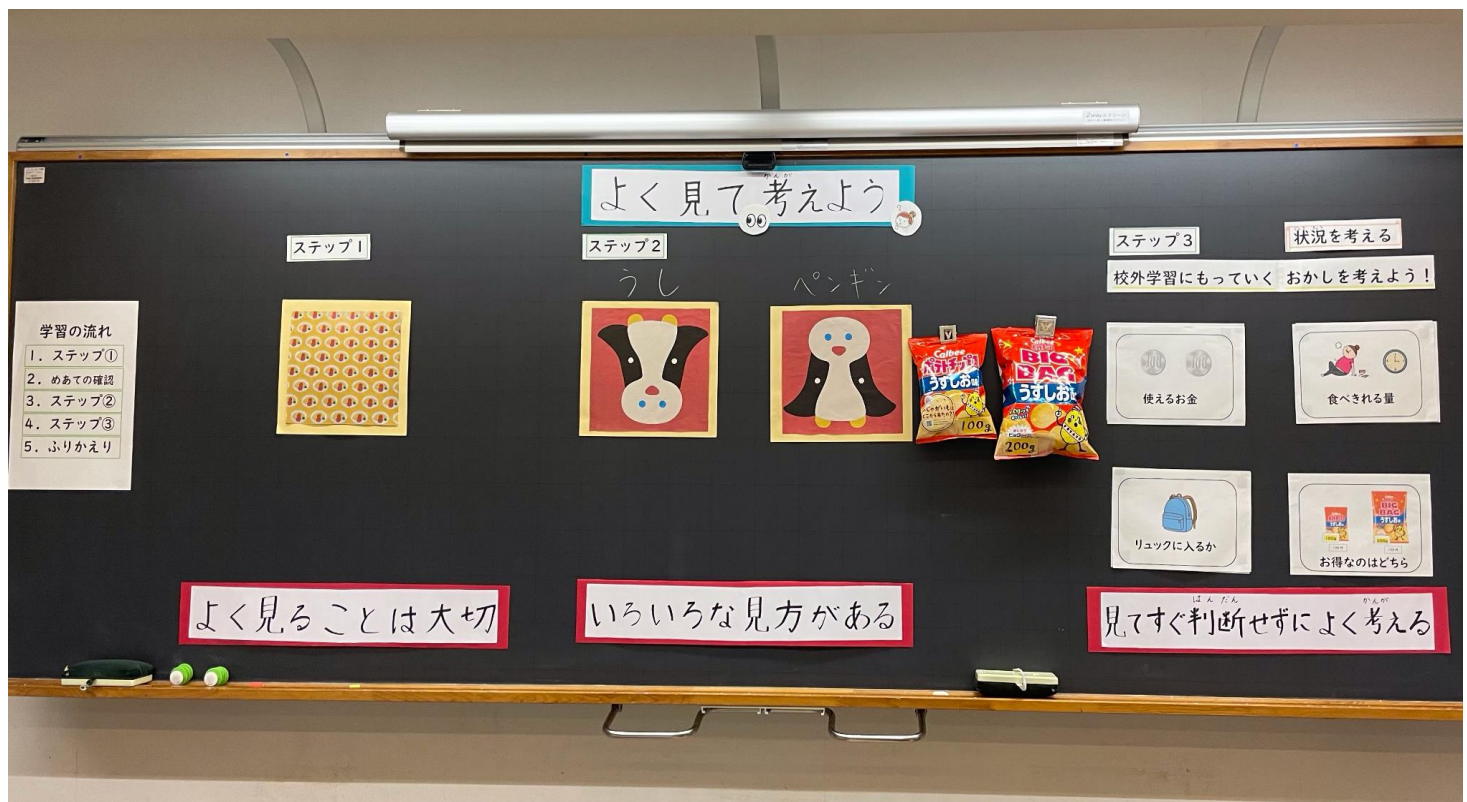
※個別の目標は当日別紙にて配付。

(2)展開

時配 (分)	指導内容・学習活動	指導上の留意点 (■消費者教育の視点・◎評価)	備 考
見 出 す 5 分	○ステップ1 絵本1『よくみると』のイラストを見て考え、どのように見えたかを話す。 ○今日は「見る」「考える」学習であることを知る。	■ぱっと見ただけで判断せず、よく見る ことが大切であることを確認する。	・電子黒板 ・実物投影機
	よく見て考えよう		
自 分 で 取 り 組 む ・ 広 げ 深 め る 26 分	○ステップ2 絵本2「くるっとだーれ？」のイラストを見て考え、どのように見えたかを話す。 ○ステップ3 校外学習に持っていくお菓子をかう場面を想定して、どんなところを意識しておく とよいかを考える。	■ものの見方はひとつではなく、いろ ろな見方があることを確認する。 ■よく見ることやいろいろな見方がある ことを踏まえた上で、それを買う物に 生かしてみることを伝える。 ・商品の税込や税抜き ・店によって値段が違う ・状況を考える ■見てすぐ判断せずによく考えることを 確認する。	・ショッピング センター内の 売り場や商品 の写真
ま と め あ げ る 14 分	○振り返りをする。 ○フリータイム	■「よく見ることは大切。」「いろい ろな見方がある。」「見てすぐ判断せず によく考える。」ことをもう一度確認 する。 ◎友達の見方や考えを聞き、自分の考え を述べることができたか。(自立活 動：発言、ふりかえりシート) ◎身のまわりの生活情報に対し、よく見 て考えようとしている。(消費者教育 の視点：発言、ふりかえりシート) ■店内の菓子売り場の写真や、実際の菓	・振り返りシー ト

		子、今日扱った本などを広げて、自由に見ることができる環境を作る。	
--	--	----------------------------------	--

板書計画



み かんが
よく見て考えよう

えんそく か
遠足のおかしを買おう！

絵本1

絵本2

200円
以内

リュック
に入る量

食べる
時間

どちらが
お得？

1. よく見ることは大切

2. いろいろな見方がある

3. 見てすぐ判断せずによく考える

絵本のイラスト・写真

(3)使用予定教材・資料等

教材・資料

- ・絵本…『よくみると』作・絵：Shimizu 発行：2022.9.26 出版社：Gakken
- ・絵本…『くるっとだーれ?』作・絵：かしわらあきお 発行：2022.11.20 出版社：主婦の友社
- ・振り返りシート
- ・実物投影機
- ・電子黒板



よく見て^{かんが}考えよう



名前【_____】

- ・ステップ1 「_____ことは大切」
- ・ステップ2 「いろいろな_____がある」
- ・ステップ3 「見てすぐ^{はんだん}判断せずに_____」

◆ふりかえり◆

◆買い物メモ◆

--

(1)児童生徒の様子・変容

今回は、イラストや菓子を用いて、「見る」と「考える」ことを柱に学習を進めた。

導入部分で、よく見ないと違うものに見えるイラストや1つだけある違い探しをしたことで、児童が「よく見て考える」というテーマを理解し、短時間で様々な活動を行うことができた。

校外学習に持っていく菓子を買うという身近な行事を取り上げ、児童が菓子の現物を見て触れ、考えることで当事者意識を持ち、「〇〇だったら」と場面や条件を踏まえながら選択することができた。

最後のふりかえりでは、「よく見ることは、日常生活にもいかせる」や「よく見て、考えて、それでも難しいときは、誰かに聞く」というさらに次のステップを見越して考えられている児童もいた。消費者として考えるべきことや注意しなければいけないことを、学習を通して感じてもらうのではないかと。

(2)成果と課題

○成果

- ・授業実践の前に、特別支援学級の先生方に模擬授業を行い、声かけや教材の提示の仕方、個別の手立てなどのご指導を頂いた。当日はスムーズに学習内容を展開することができた。
- ・学習の最初に、どんな考えも正解だということを伝えたことで、安心して意見を出せる雰囲気になった。自分の考えを発表する際に全員が挙手する場面もあった。
- ・児童が校外学習の菓子を実際に購入した後、購入の際に気をつけたことをアンケートした。「値段をよく見て買った」「リュックに入るかを確認して買った」「菓子袋に・が開いていないか見た」「賞味期限を確認した」「2種類のチョコの菓子で迷い、1つは90円、もう1つは60円で、内容量が同じだったため、安い方を買った」という意見が出た。目についた物をすぐ買うというものではなく、よく見て考えて買ったことが窺えて、学習が実践につながったと感じた。

○課題

- ・児童の発言で「シェア」という言葉が出た。「分け合う」という英語の意味を全体で確認できるとよかった。
- ・フリータイムで菓子の商品を見る際に、賞味期限を見ている児童がいた。見る視点を詳しくおさえて、もっと広げるとよかった。
- ・校外学習に持っていく菓子を選ぶ場面で、お得なのは大袋の菓子だが、校外学習に持っていくのは小さい菓子の方がよいという意見が出た。色々な情報を読み取り、その上で判断するという状況に応じた選択場面を今後も積極的に取り入れることで、生きていく中での学びを広げていけるのではないかと。

消費者教育授業実践計画書／報告書

実施予定日	令和 5年 12月 5日 (火)	
題材(単元)名	社会科 公民的分野 第4章 1節 消費生活と経済	
実施校	柏市立逆井中学校	
学年 / 教科等	第 3 学年	教科等： 社会 (公民的分野)
指導者	井口 菜緒	

1. 題材(単元) について

(1) 題材(単元) の設定について

本単元は、学習指導要領の社会科（公民分野）の内容「B 私たちと経済」（1）「市場の働きと経済」に位置づけられている。そのうち「ア（ア）身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解すること」について、経済活動が人間生活の維持・向上のためにあり、経済は生活のための手段に他ならないことを、生徒に身近な消費生活である消費生活を中心に理解させていくものである。

今回の消費者教育実践において、本単元の学習を通じて、個人や企業における経済活動の役割と責任について多面的・多角的に考察させるとともに、将来的な「持続可能な社会の創り手」としての力を身につけさせるために、ICT活用や他者との意見交流を通じて、将来「主体的に社会に関わろうとする態度」を育成していきたい。

(2) 目標

本単元は、「消費者教育の体系イメージマップ」において、重点領域「消費者市民生活の構築」のうち「消費が持つ影響力の理解」「持続可能な消費の実践」、重点領域「商品等の安全」のうち「商品安全の理解と危険を回避する能力」「トラブル対応能力」に該当する。

今回の消費者教育実践において、私たちの消費生活と経済のかかわりについて理解させるとともに、自立した消費者であるためにはどうすべきか考察し、表現できるようにさせていく。そのために、身近な消費生活にある契約の事例をもとに、より良い消費生活を目指す意識を持たせたい。

2. 指導計画

時	指導内容	消費者教育の視点での目標
1	1, 私たちの消費生活	私たちの消費生活は、経済とどのようにかかわっているか、理解する。
2	2, 契約と消費生活	契約の意義を理解し、消費者にとっての契約とは何か、理解する。
3	3, 消費者の権利を守るために【本時】	将来自立した消費者になるためには、どうすべきか、考察し表現する。
4	4, 消費生活を支える流通	商品がどのようにして消費者のもとに届くか、その流れと仕組みを理解する。

3. 本時

(1) 目標

- ・消費者に保障されている権利や果たすべき責任について理解する。（知識・技能）
- ・将来、自立した消費者であるためにはどうするべきか多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現する。（思考力・判断力・表現力）

(2) 展開

時配 (分)	指導内容・学習活動	指導上の留意点 (■消費者教育の視点・◎評価)	備考
見出す 10分	・前時の学習内容を教科書やワークシートを使用しながら、ペアで確認する。 ・消費者問題をめぐる裁判事例について、消費者と企業、どちら側が責任が重い判決になるか、全体で考える。	◎前時の内容を復習できたか。 (知識・技能) ■消費者問題をめぐる裁判事例を考察し、消費者問題について関心を高めさせる。 ◎本時の内容について関心を高められたか。(主体的に学習に取り組む態度)	パワーポイント
	私たち消費者には、どのような権利が保障されているだろうか？		
自分で取り組む 10分	・ワークシートを用いて、個人学習を行う ①教科書をもとに、重要語句を確認する。 (消費者の権利、クーリングオフ、PL法、消費者契約法、消費者基本法) ②「SNSを介したトラブル」「ワンクリック請求」など、消費者問題に実際に巻き込まれたら自分はどういう対応をとるか考え、ワークシートに記入する。	◎消費者問題に実際に巻き込まれたらどのような対応をとるか。自分で考察できているか。(思考・判断・表現)	ワークシート
広げ深める 27分	・全体で、ワークシートの内容を確認する。(10分程度) ・全体確認後、10分間グループ学習 ①「SNSを介したトラブル」「ワンクリック請求」など、消費者問題に実際に巻き込まれたら、どのような解決方法・解決制度・相談先があるか、グループで話し合う。 ②グループで1名がクロムブックを使用して、千葉県や柏市には、どのような解決制度・相談先があるか、調べる。	・挙手と発表にて、全体確認を行う。 ・各グループごとにトラブル事例を割り振り、活発な活動になるようにする。 ■消費者問題に対し、自分ごととしてとらえるように机間指導・助言を行う。 ■消費者問題に実際に巻き込まれたらどのような対応をとるか、考察させる。 ◎グループ活動時に、主体的に活動に	パワーポイント ホワイトボードとペン

	③話し合った内容・調べた内容を、ホワイトボードに記入して、黒板に貼る。 ・グループ学習後、全体で共有する。各グループの代表者が1分以内で、話し合った内容・調べた内容を簡潔に発表する。	取り組めているか。（主体的に取り組む態度） ◎グループ内や全体共有の場で、消費者問題を自分ごととしてとらえているか。（思考・判断・表現）	
まとめあげる3分	・本時の授業で学んだことをもとに、まとめを行う。 ・「将来、自立した消費者になることが大事」ということを教科書で確認する。	◎本時の内容を理解し、自立した消費者になるためにはどうしたらよいかを考察できたか。（知識・技能）（思考・判断・表現）	

（3）使用予定教材・資料等

- ・教科書（東京書籍 新しい社会 公民 P134, 135）
- ・ワークシート
- ・パワーポイント
 - ①消費者問題をめぐる裁判事例（例：マンナンライフのこんにゃくゼリー訴訟など）
 - ②本時の重要語句など
 - ③「SNS を介したトラブル」「ワンクリック請求」などの事例
- ・グループ学習時のホワイトボード、ホワイトボード用ペン

※参考資料

「かしこい消費者のススメ ～みんなで考えよう暮らしとお金～」 （愛知県県民文化局県民生活部 県民生活課）

4. 実践報告

（1）児童生徒の様子・変容

授業中においてはどの生徒も、消費者に保障されている権利や、われわれ消費者が果たすべき責任について理解を深めている様子が見られた。また、消費者トラブルの過去事例や、将来身近に起こる可能性のある消費者問題を通して関心を高め、実際に巻き込まれたらどのような対応をとるかを調べ上げ、より具体的行動を考察する様子が見られた。

（2）成果と課題

○成果

普段何気なく生活する中で契約が発生していること、契約と消費を繰り返す中でのトラブルが起こった時に対応できる法律・解決できる制度があること、グループワークを通して「消費者ホットライン・188」があることや、柏市にも相談できる場所があることなどを理解しまとめあげ発表する事が出来た。

対応策を「知っている」と「知らない」では大きな差が生まれ、そのような状況になってからでは解決や行動が遅くなってしまうため、中学3年生のこの時期に理解し考察できたことは大きな成果だったと考える。

○課題

授業後半の「いざトラブルが起きたらどうするか?」「自立した消費者であるためにはどうすべきか?」と考察する時間・まとめる時間をもう少し長くとることができたら、より多くの対応方法・相談先を考察し表現できたかと思う。

また、「消費者教育」を単発的に行うのではなく年間で継続して行うことができれば、より充実した授業にできたと思うので、これからの課題としたい。

消費者教育授業実践計画書／報告書

実 施 予 定 日	令和 5年 1 2月 4日 (月)
題材(単元)名	第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と市場経済
実 施 校	柏市立 松葉中 学校
学 年 / 教 科 等	第 3 学年

1. 題材(単元) について

(1) 題材(単元) の設定について

- 生徒に身近な「消費活動」について、「消費者の自立」の視点に立ち、展開していく。
- 本題材の目標
「消費活動をする際に注意すべき点について、考え、理解する。」
- 消費活動でなぜ消費者の自立がもとめられているのだろうか。
「消費者が自分の意思と判断で適切な商品を選択する必要がある」
「現在・未来への計画性を持った消費生活を送る必要がある」

(2) 目標

消費者教育の体系イメージマップの「中学生期」に該当し、消費者市民教育の構築「消費者の参画・協働」に該当する。自分の意思で選択した「財・サービス」について、消費、契約したと仮定して、どのような問題や注意することが想定されるかを考える。自分で判断したり、考えたことを相手にわかりやすく伝えることにより、知識の定着に繋げたい。

2. 指導計画

時	指導内容	消費者教育の視点での目標
1	「経済」とは？ 消費者に保障されている権利とは？	○消費者にとって契約とは何かを理解する。
2 本時	より良い消費生活のために、どのような視点を持って契約と消費をしていくべき？	○より良い消費生活を送るために必要なことについて考察、表現する。

3. 本時

(1)目標

本時の指導において身につけさせたい消費者教育の視点に立った目標について記述する。

○自分の「欲しいもの」の「契約」と「消費」において起こりうるトラブルを想定し、その対処法を考察、表現する。

(2)展開

消費者教育の視点に立った本時の目標が達成されるべく指導過程を工夫し、問題点の解決のための活動を明示する。

時配 (分)	指導内容・学習活動	指導上の留意点 (■消費者教育の視点・◎評価)	備考
見 出 す 10 分	1. 将来、手に入れたいものを考える。 (購入可能な商品を想定する。) 2. ものやサービスを買う(契約する) 際に重要視することを考える。	■消費者の活動について考える。	
自 分 で 取 り 組 む	より良い消費生活のために、どのような視点を持って契約と消費をしていくべき？		
25 分	☆まとめる内容 ○自分の欲しいものについて ○「契約」と「消費」の際に注意することについて ※消費者保護についての法令や制度にも触れられるとよい 端末使用・不使用、アプリ(スライド、jamboard等)の選択も個人で判断する。		
広 げ 深 め る 10 分	3. 課題を確認し、資料づくりを行い、説明の準備をおこなう。		
	4. まとめた内容について、代表者が発表し、それぞれの考えを全体で共有する。(3～4名程度)(発表者は教卓へ移動し、スライド等を示しながら1分以内で発表)	◎自分の意思で契約、消費したものについて、考えを周囲にわかりやすく伝えることができる。 ■消費生活の自立の視点で取り組む。	
ま と め あ げ る 5 分	5. 発表者の内容をもとに、授業者が補足を加える。	■自動車の「契約」と「消費」を例に消費活動の例を確認する。消費者保護についての法令や制度にも触れる。	

(3)使用予定教材・資料等

ワークシート，掲示資料，教材，教具(ICT 機器等)について記述する。

教科書，資料集，ワークシート，chromebook（スライド，jamboard），ホワイトボード

4. 実践報告

(1)児童生徒の様子・変容

自分の購入したいものを挙げることについて，興味をもって取り組んでいた様子であったが，同時に購入時の注意やその後のリスクなど方法や注意することがあるという意識の変化が見られた。生徒の中には，消費者に関する法令や制度に触れながら，購入したいものについてまとめ，説明した者もいた。今回の学習を通して，自立した消費者になるという自覚が見られた。

授業中に見られた児童生徒の消費者教育の視点に立った思考
消費者教育の視点から見た授業後の児童生徒の変容
等について記述する。

(2)成果と課題

○成果

消費生活に関心をもち，課題に取り組むことができた。現実に近い内容の課題を設定し，できるだけ現実に近い内容の種類を用意し，本人の意思決定によって情報をまとめさせていった。それにより，多くの生徒が「自分でものを買ったら」という視点に立って，考えることができた。中学生であるため，買い物や支払いの多くは保護者が行っているため，イメージがわきにくい部分もあった様子であった。一方でクレジットカード決済やローンなどのリスクや注意する点を考えて取り組む姿も見られた。

消費者教育の視点に立った目標の達成度・児童生徒に身についたこと等を記述する。

○課題

中学校を卒業するとアルバイトが可能になり，自分自身で所得を得ることができるようになることや18歳で有効な契約ができるようになり自分で契約の責任を持たなくてはならないなど，これから消費者としてさらなる注意が必要となってくる。

社会科分野では，今回設定した公民分野だけでなく，地理分野，歴史分野のさまざまなところに消費者教育の視点がある。一方で，教科の枠にとらわれずとも日々の生徒との会話の中でも話題にあげることができるとも考える。人は誰もが消費者として暮らすということを忘れず，指導に当たりたいと考えている。

目標の達成度において，工夫改善の余地等について記述する。

消費者教育授業実践計画書/報告書

実施予定日	令和5年12月13日(水)
題材(単元)名	3編4章 - 地域の在り方
実施校	柏市立豊四季中学校
学年/教科等	2年5組 / 教科等: 東京書籍「新しい社会」
指導者	安藤 圭彦

1. 題材(単元) について

(1) 題材(単元)の設定について

2016年12月22日にSDGs推進本部が決定した「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」の具体的施策には、「ESD（持続可能な開発のための教育）・環境教育の推進」が明記され、「2020年度から開始される新しい学習指導要領に基づく教育課程の改善・充実や、学校現場で活用される教材の改善・充実に推進する」と記載された。

改訂学習指導要領の前文に「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる ことができるようにすることが求められる。」と明示された。このことから、今後の社会科教育にはSDGsの視点を持ち、地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことが求められているといえる。

上記の視点から本単元において「柏市民」として、そして1人の「消費者」として、地域課題を解決しようとする主体的な態度を育むことを目指す。

(2) 目標

- ・地球規模の諸課題や地域課題を追究していく過程において、SDGsについて興味関心を持ち、活動の意味や取り組みについて理解することができる。（知識・技能）
- ・地球規模の諸課題や地域課題を追究していく過程において、その具体策を様々な手段で表現するとともに、SDGsの視点で課題解決に向けて多面的・多角的に考察することができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・柏市民として、市が掲げる「柏市プラスチック・スマート宣言」に関心を持ち、持続可能な社会に貢献できる消費者として、SDGsの視点で課題解決に向けて意欲的に追究しようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

2. 指導計画

時	指導内容	消費者教育の視点での目標
1	・持続可能な社会へ向けた取り組みを調査する。	・SDGsについて興味関心を持ち、活動の意味や取り組みについて理解する。 ・SDGsについて具体的な活動や、目的について理解を深める。 ※消費者教育の体系イメージマップとの関連性 【情報とメディア】
2	・持続可能な社会へ向けて求められる順序を考える。	・ピラミッドグラフを用いて、持続可能な社会へ向けて、より求められると思う目標を選択し、自身の中で優先的に取り組むべき活動を考える。 ※消費者教育の体系イメージマップとの関連性 【消費者市民社会の構築】
3	・身近な課題から考える。 (SDGsの視点でマイクロプラスチック問題を考える。)	・1人の消費者として、「柏市プラスチック・スマート宣言」に関わる当事者意識を高め、「持続可能な消費実践」について考える。 ※消費者教育の体系イメージマップとの関連性 【消費者市民社会の構築】

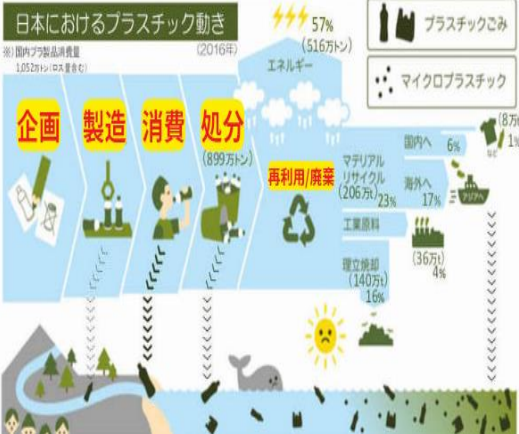
3. 本時

(1)目標

- ・柏市民として、市が掲げる「柏市プラスチック・スマート宣言」に関心を持ち、持続可能な社会に貢献できる消費者として、SDGsの視点で課題解決に向けて多面的・多角的に考察することができる。(思考・判断・表現)
- ・持続可能な社会の実現を視野に、SDGsの視点で課題解決に向けて主体的に追究しようとしている。(学びに向かう力・人間性等)

(2)展開

時配 (分)	指導内容・学習活動	指導上の留意点 (■消費者教育の視点・◎評価)	備考
見出す 15分	【発問】 Q：10年後、柏市はどんな都市(地域)になっていてほしいですか？ 1：前時の復習から「柏市が目指している都市づくり」について確認する。	・都市(地域)の未来について、他人事ではなく、自分事として考えられるように意識付けを行う。 ・「環境未来都市構想」などについてふれながら、身近な地域が掲げる都市づくりについて興味や関心	WS スライド WS スライド

	・ 柏市が目指す街づくり サステナシティ「かしわ」の実現 ～持続可能な循環型社会の次世代への継承～ 2： 柏市が都市づくりで向き合っている課題について、どんな立場で向き合うべきか考える。 ・ どんな立場で向き合うべきか。 生産者として考える → × 消費者として考える → ○  3： めあてを提示する。	を高める。 ・ 身近な地域が抱える問題が、世界規模の課題にどのようにつながるか理解し、興味や関心を高める。 ・ 繋がる世界規模の課題。  ■ 「柏市プラスチック・スマート宣言」について紹介した上で、消費者として、利用後のプラスチックがどのように環境に関わっていくかを理解し、持続可能な開発への意識を高める。	WS スライド
持続可能なプラスチック利用に向けて、私たちにできる取り組みを考えよう！			
自分で取り組む 10分	4： (2) 下記の条件を確認して、めあての課題に取り組む。 個人 ① Yチャートを用いて、2つの取り組みを考える。 ② スタートブックに載っている事例を参考にしても構わない。	◎ めあてについて、前時で調査した事例等なども活用しながら、多面的・多角的に考えることができる。【思考・判断・表現】 SDGsカード Yチャート  上記の2つを用いて作業します！	WS CANVA
広げ深める 15分	5： (2) 下記の条件を確認して、めあての課題に取り組む。 グループ ③ 班で共有後に、班員が考えた取り組みを3つ発表する。	1班 ここに取り組みや手立てを入力 各班で10分  ここに取り組みや手立てを入力 ここに取り組みや手立てを入力	WS CANVA

まとめあげる10分	6：まとめ あなたは「柏市プラスチック・スマート宣言」達成に向けて、どのように関わっていきますか？ 例：目標12の「つくる責任、つかう責任」で学習したように、人や自然に負担をかけない消費の在り方について考えていきたいと思います。	■柏市の消費者として、今後も「柏市プラスチック・スマート宣言」について問い続けていくきっかけとする。	WS
-----------	---	---	----

(3) 板書計画

スクリーン	持続可能なプラスチック利用に向けて、私たちにできる取り組みを考えよう！ (2) の発表内容 発表する班の説明  取り組み：・・・すること。 理 由：・・・が効果的だから  取り組み：・・・すること。 理 由：・・・が効果的だから
-------	---

(4) 指導案記載の評価規準（◎：評価）に基づく本時の評価方法

- ・WEBアプリCANVA上で作成したYチャートの記載内容から「思考・判断・表現」について評価する。

(5) 参考資料

- ・中学校学習指導要領解説 総則編 平成29年7月 文部科学省
- ・中学校学習指導要領解説 社会 平成29年7月 文部科学省
- ・わたしたちがつくる未来SDGs START BOOK 持続可能な開発目標 2023年5月25日 東京書籍株式会社
- ・未来を変える目標SDGs アイデアブック 2021年5月7日 一般財団法人 Think The Earth
- ・柏市一般廃棄物処理基本計画 令和5年3月改定 柏市環境部廃棄物政策課

(6)使用予定教材・資料等

①ワークシート（指導上の表記：WS）

第4章「地域の在り方」P270～281

2年 組 氏名_____

(1) プラスチック利用に関する問題点を私たちはどんな立場で考えるべきだろうか？ 個人

の立場で考えるべきだと考える。

めあて

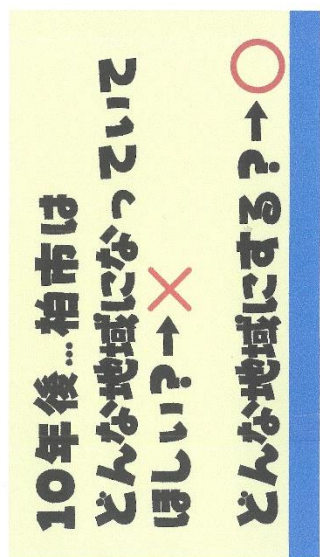
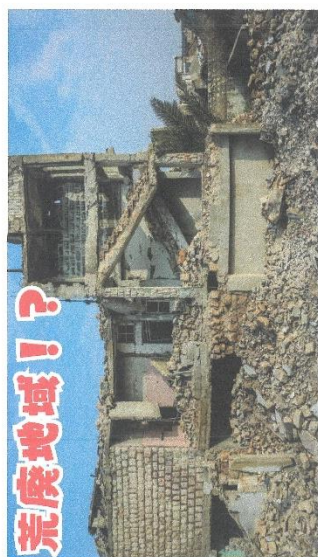
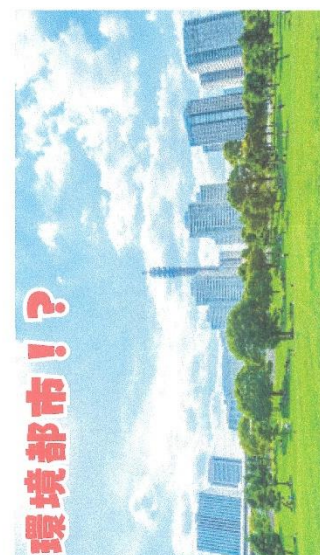
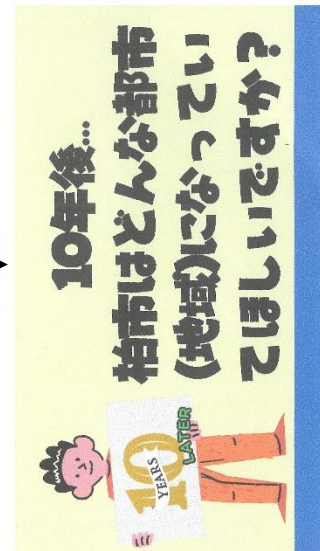
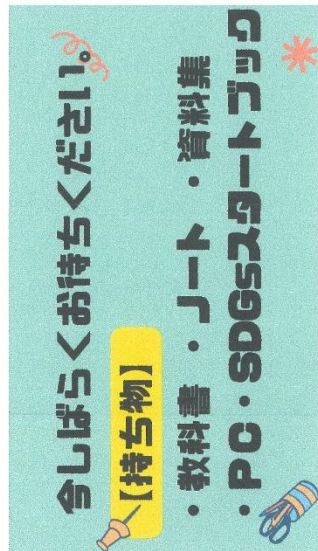
持続可能なプラスチック利用に向けて、私たちにできる取り組みを考えよう。

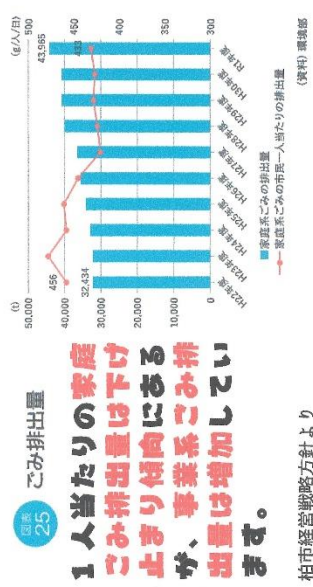
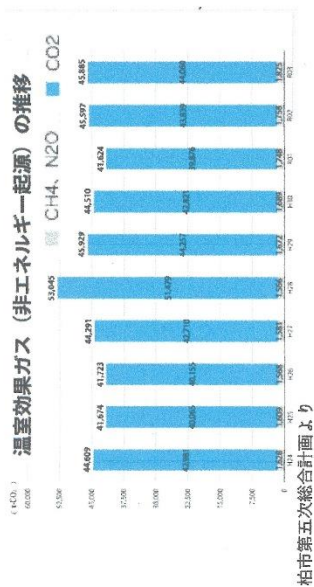
(2) 下記の条件を確認して、めあての課題に取りくもう！ 個人→グループ

- ① Yチャートを用いて、2つの取り組みを書くこと。
- ② START BOOKに載っている事例を参考にしても構わない。
- ③ 班で共有後に、班員が考えた取り組みを3つ発表してください。



(3) 「柏市プラスチック・スマート宣言」達成に向けて、どのように関わっていきますか？ 個人





知識

廃棄物部門の大部分は、**廃プラスチック類の焼却に伴うCO2**が占めています。

※食料品等は元々含まれているものが大気中に戻るという扱い。

知識

柏市は全国で**11カ所**しかない「**環境未来都市**」に選定されています。

※環境、社会、経済の3つの価値を創造し続ける「誰もが暮らしたいまち」の実現を目指す。

※日本で**2番目**に**地球温暖化対策条例**を制定。

知識

柏市が目指す姿とは...

サステナシティ「かしわ」の実現

～持続可能な循環型社会の次世代への継承～

※サステナシティ（持続可能な都市）の略

知識

しかし...**ただ**が雲行きが...

サステナシティ「かしわ」の実現

～持続可能な循環型社会の次世代への継承～

※サステナシティ（持続可能な都市）の略

Let's think♪

自分事

- ・ 将来のこと
- ・ 柏市のこと

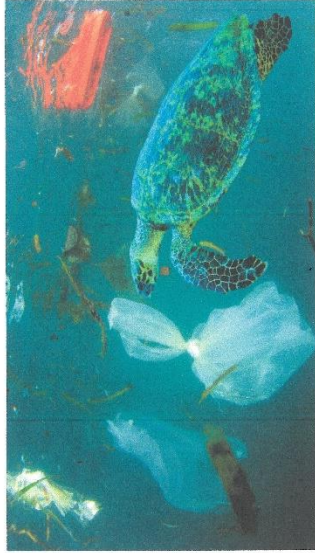
前回のまとめ

「**個人**」にとって優先順位があるということは、**個人**が**なまり**形と成される「**都市**」 = 「**柏市**」にも優先順位がある。

知識

柏市が目指している都市について知ろう！

世界の海に流れ込む海洋プラスチックごみは毎年、**少なくともスカイツリー390基**に相当している。



知識

柏市が抱えるプラスチック利用の
について、他にも問題が...
CO2排出以外にプラスチックがもたらす悪い影響とは何だろうか？

マイクロプラスチックが、海の生き物たちの
体から見つかっています。そして、それらの
生き物を食べてい
るわたしたちの体
にも蓄積し続けて
いると言われ
ています。

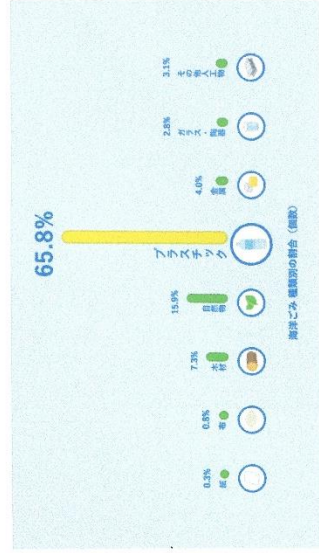


知識

・柏市プラスチック・スマート宣言！
令和5年
2月20日

柏市は
Plastics Smart
プラスチック削減
に取り組んでいます
柏市では、持続可能な社会の実現に向け柏市が一事業所として
率先してプラスチック削減に取り組んでいくため
『柏市プラスチック・スマート宣言』を行いました。

世界の海に流れ込む海洋プラスチック
ごみは毎年、**少なくともスカイツリー3基**に
相当している。



では今日から...いや、
今から1人の「消費者」
として、また「柏市民」
として、各自が意識を高
くもって、色々な実践を
していきたいと思います！



個人で10分

(例)キットカットの外袋を
プラスチック製から紙製へ

皆さんが考えた取り組みを入力

皆さんが考えた取り組みを入力

ここに氏名を入力

めあて

消費者の立場で

持続可能なプラスチック利用

に向けて、私たちができる取

り組みを考えよう！

1班

各班で10分

ここに取り組みや手立てを入力

ここに取り組みや手立てを入力

ここに取り組みや手立てを入力

(2)

下記の条件を踏まえて、めあての課題に取り組みよう！

①Yチャートを用いて、2つの取り組みを書くこと

②スタートアップに載っている事例を参考にしても構いません。

③最後に班で共有後に、班員が考えた取り組みを3つ発表してください。

(3)

「柏市プラスチック・スマート宣言」達成に向けて、あなたは、どのような関わっていきませんか？

SDGsカード Yチャート

上記の2つを用いて作業します！

4. 実践報告

(1) 児童生徒の様子・変容

生徒のまとめに「今日からまずは、自分の日常の中でどのようにプラスチックを使っていて、どのくらい捨てているかを測った上で、マイバッグや環境に優しい物を買うなど、自分にできることから始めて関わっていきたいと思いました。」とあったことから、「世界規模、または他国の課題」として捉えられていたプラスチック利用（SDGs）について、自分事として捉え、実生活に反映させようとする態度がみられた。

下記の成果にもある通り、本時において柏市が「環境未来都市」に選ばれていることなどを知ること、地元である「柏市」に対しての生徒の印象をよりポジティブなものへとつなげることができたこともあって、非常に意欲的に消費者教育に参加していた。

(2) 成果と課題

○成果

①目標への達成度について

めあてにも提示している「柏市民として」また「持続可能な社会に貢献できる消費者」の自覚を持ち、SDGsの視点で課題解決に向けて考察しようとする生徒が多かった。

② 単なる消費者教育ではなく、「柏市プラスチック・スマート宣言」を単元の土台とすることで、本時の課題に対して、生徒が柏市の実態を踏まえて授業に臨むことが出来ていた。また、日本で2番目に環境未来都市に選定されたことなど、地域理解の面でも肯定的な反応がみられた。

○課題

本実践では、あくまで2年生時の学習として行ってきた。しかし、「消費者視点のみ」で「持続可能なプラスチック利用に向けて、私たちにできる取り組みを考えよう。」という本時のめあてについて深めるよりも、「生産者視点・消費者視点の双方」から学習していくことで、「消費者教育」のより良い探究に繋がるのではないかと考えられる。

以上のことから、3年生の公民で取り扱う「第4章 私たちの暮らしと経済 2節 生産と労働」において、本時と同様のめあてを「生産者視点」で考えた後に、本実践で生徒から回収した「消費者視点のみ」で構成された本時のまとめと比較することで、双方の立場から考えた持続可能な消費を考えることができるのではないかと感じた。

消費者教育授業実践計画書／報告書

実施予定日	令和 5年 9月 28日 (木)		
題材(単元)名	自然災害と防災・減災への取り組み ～千葉県内で移住するなら、どんな点に気を付けたらいいの?～		
実施校	柏市立風早中学校		
学年 / 教科等	第 2 学年	教科等：社会科(地理)	
指導者	山口 力輝		

1. 題材(単元) について

(1) 題材(単元)の設定について

日本は大規模な地震や津波、台風や豪雨など多様な自然災害が発生しやすい地域が多く、防災設備やハザードマップの作成など、国や地方公共団体が防災、減災対策に努めている。今回は生徒たちが将来千葉県内で移住すると仮定した場合、どのような土地を選ぶのが良いのか、その際にどんな情報を得てから土地の選定を行えば、危険を回避し、防災・減災につながるのかということを生徒自身で探させる活動を通して、消費者としての視点を養いたいと考え、単元を設定した。

(2) 目標

- 日本では自然災害が多く発生することに対して、国や地方公共団体が防災・減災対策に努めていることを理解する。
- 移住する際にどんな点に注意し、選定を行うことが必要であるか、また、どんな情報を得てから選定を行うべきか理解する。

2. 本時

(1) 目標

- 日本では自然災害が多く発生することに対して、国や地方公共団体が防災・減災対策に努めていることを理解する。
- 将来千葉県内で移住すると仮定した場合、どんな点に注意し、選定を行うことが必要であるか、また、どんな情報を得てから選定を行うべきか理解する。

(2) 展開

時配 (分)	●指導内容・○学習活動	指導上の留意点 (■消費者教育の視点・◎評価)	備 考
見 出 す 5 分	●日本で起こる自然災害の紹介 ○スライドに出された自然災害について知っていることを答える。 ●自然災害は多くの種類があることを紹介 ○自然災害の種類をワークシートに記入	◎日本では自然災害が多く発生することを理解している。	PowerPoint ワークシート
	自然災害の多い日本では、どんな防災・減災対策をしているのだろう。		

自分 で 取 り 組 む 10 分	●chromebook を出させて、国や地方公共団体の防災・減災対策の情報を自ら調べさせる。 ○4人1班を作り、人間の力ではどうにもならない自然災害に対して、国や地方公共団体が防災・減災対策をしているのか、chromebook を使用し、調べる。	◎日本では自然災害が多く発生することに対して、国や地方公共団体が防災・減災対策に努めていることを理解する。	ワークシート Chromebook
広 げ 深 め る 25 分	●将来千葉県内で移住すると仮定し、どんな土地を選ぶことが防災・減災につながるのかを考えさせる。 ○国や地方公共団体のHP などから情報を得て、将来一軒家を建てると仮定すると、どんな土地を選ぶと良いのか考える。	■自ら情報を収集・選択し、消費者として土地の選定を行う。 ◎移住する際にどんな点に注意し、選定を行うことが必要であるか、また、どんな情報を得てから選定を行うべきか理解する。	Chromebook
ま と め あ げ る 5 分	○どんな土地を選んだのか、選ぶべきなのか自分の考えをまとめる。 ○発表し、班内でシェアする。	◎消費者の視点を持った情報収集・選択を行っている。	Chromebook

(3)使用予定教材・資料等

ワークシート，導入用のスライド，chromebook

4. 実践報告

(1)児童生徒の様子・変容

授業中の生徒の様子として、グループでの話し合い活動をどの生徒も意欲的に行い、自らの考えを発信することができた。「自然災害」をテーマにした授業だったため、普段の授業よりもより主体的に自分事として考得ことができ、内容がわからないという様子はなかったように感じた。

授業後の生徒の感想を抜粋すると「千葉県の中でも災害に強い自治体と弱い自治体があることを初めて知った」「災害に弱い自治体だからこそ災害対策に注力していることを知った」という内容

の記述が見られ、各自治体が防災・減災対策に努めていることを chromebook での情報収集で理解することができた。

(2)成果と課題

○成果

移住先を決める，という中学生には今まで考えたこともない視点の授業実践だったが，消費者教育の体系イメージマップ中の「商品安全の理解と危険を回避する能力」「情報の収集・処理・発信能力」を1時間の中で理解し，学習に活かすことができた。

○課題

社会科の消費者教育という視点から考えると，地理分野では今回のような単発での授業でしか実践を行うことができていないため，細切れでも継続して授業実践をしていくことが今後の課題として挙げられる。

第3編 「日本の様々な地域」 2章「日本の地域的特色と地域区分」(教 p.158-177)

7)

章を貫く課題 世界から見た日本にはどのような特徴があるのだろう。

3 自然災害と防災・減災への取り組み(教 p.164-165)

ノート

課題：

●自然災害

自然災害の代表的な例

・地震…地殻の変動などによって地面が揺れる現象
→海底から発生する巨大な波…()・地盤が液体のようになる()現象
・()…地表から急激に溶岩や火山灰が噴出する現象
・()…台風などの影響で海面が以上に高くなる現象
・()…夏に気温が上がらず、作物の生育が悪くなる現象
・()…雨があまり降らず、水不足になる現象 など多くの自然災害がある。

●防災対策と防災意識

自分の家や学校、街ではどんな防災・減災(災害の被害を減らす)の取り組みをしているだろう？

自分の家

自分の学校

自分の街

今日のアクティビティ 千葉県内で移住するなら・・・？

千葉県内で移住をするならどの市町村を選びますか？「自然災害」「防災」「減災」の観点を踏まえて、どの市に移住をするか選びましょう。今回は「交通で便利だから」「観光地があるから」などの理由は抜きで考えてみましょう！

手順

①千葉県内で、今まで起こった災害ではどんな被害があったか調べよう。

②千葉県内で、災害に遭う危険性が高いのはどんな場所といえるだろうか。

③様々な情報にふれて、千葉県内で移住するならどの市町村が良いか決定しよう。

私が移住するなら千葉県()に移住します。

理由は、

消費者教育授業実践計画書／報告書

実 施 予 定 日	令和 6年 1月 17日（ 水 ）		
題材(単元)名	情報社会における法と個人の責任		
実 施 校	柏市立柏高等学校（PC2 教室）		
学 年 / 教 科 等	第 3 学 年 D 組	教科等：社会と情報	
指 導 者	戸邊 玲香		

1. 題材(単元) について

(1) 題材(単元) の設定について

現代社会では、情報が私たちの生活において非常に重要な役割を果たしている。インターネットやソーシャルメディアの普及により、情報は容易に入手可能となった。しかし、情報の大量化と容易な拡散は、私たちにとって新たな課題をもたらした。消費者教育は、情報社会において重要な要素であり、個人が適切な情報を評価し、意思決定をする能力を養うための教育です。本単元を学ぶことで、個人は広告や宣伝に惑わされず、自分のニーズや権利を守ることができる。また、情報の信頼性や正確性を判断する能力も養われる。

情報社会における個人と社会の責任は密接に関連している。個人は、情報を入手したり共有したりする際に、正確性や信頼性を確認する責任を負う。また、個人は他者に対しても情報を正確に提供する責任がある。情報の拡散においては、情報の真偽を確かめることや、偏見や誤解を広めることを避けることが重要である。

一方で、社会も情報の信頼性や正確性を確保する責任を持っている。情報提供者やメディアは、公正で客観的な情報を提供することに努めるべきである。また、情報の偏りや操作、プライバシーの侵害などに対しては、法的な規制や監視が必要である。情報社会における個人と社会の責任は、相互に補完しあうものであり、個人が情報の正確性や信頼性を確認し、社会が公正で客観的な情報環境を整えることによって、情報の健全な流通と利用が促進される。

消費者教育の普及やメディアの自己規制、情報リテラシーの向上などは、情報社会における個人と社会の責任を果たすための重要な取り組みである。情報社会で生活していく生徒たちは、情報を適切に扱い、信頼性のある情報環境を築くことに貢献することが求められる。

(2) 目標

- 情報社会の特徴を理解する
- 消費者教育の目的と意義を理解する
- 情報社会における個人の責任を理解する
- 情報社会における社会の責任を理解する
- 情報社会における個人と社会の責任の相互関係を理解する

2. 本時

(1) 目標

- ・個人情報の重要性を理解し、個人情報の保護についての基本的な知識を身につける。
- ・インターネットやソーシャルメディアの利用におけるリスクや倫理的な問題について認識する。
- ・消費者としての権利と責任について学び、情報を分析し判断する能力を養う。
- ・安全なオンライン環境を作り出すための行動指針を学び、実践する。

(2)展開

時配 (分)	指導内容・学習活動	指導上の留意点 (■消費者教育の視点・◎評価)	備考
見出す 10分	☆サポートの講師の先生方の紹介 1. 個人情報の定義（復習） ・個人情報の定義を確認する。 ・個人情報に該当するものを挙げる。	◎個人情報とは何か理解することができたか。	
	個人情報の重要性を理解し、個人情報を自分で守る行動指針を身につけよう！		
自分で取り組む 5分	2. 個人情報の流出について ・個人情報流出の主な原因 ・漏洩した情報は「ダークウェブサイト」などで違法に売買されたり、犯罪に使われたりする可能性があることを理解する。 ・自分の携帯キャリアの「メールアドレス」が漏洩していない確認する。	■消費者が直面する個人情報漏洩についてリスクの認識をする。 ◎個人情報かどのようなところで扱われているか実感できたか。 ◎個人情報の重要性を認識できたか。	使用サイト「norton」 
広げ深める 30分	・消費者が直面する個人情報漏洩に関する具体的な事例を挙げ「対策」を考えさせる。 ① 偽サイトによる流出 偽サイトの見分け方を学ぶ(町田弁護士) ※10分程度 ② フィッシング詐欺による流出 対処法を学ぶ (消費者市民サポートちば 小島理事) ※10分程度	■個人情報が流出することは誰にでも起こりうることを認識し、被害に遭わないようにするための行動指針を身につける。	
まとめあげる 5分	5. 相談窓口の紹介と啓発 ※ファイルの配布 (柏市消費者生活センターより) 6. 個人情報の重要性を理解し、個人情報を守るための対策をまとめる。 (感想記入)	■消費者がリスクを最小限に抑えるためにどのような行動を取るべきか考え行動する態度を育む。 ◎個人情報漏洩の危険性や原因について理解できたか。	感想は Google フォームにて行う。
	個人情報を自分自身で守るために日頃からできる対策を考えよう！		

(3)使用予定教材・資料等

- ・パワーポイント
- ・教科書
- ・授業プリント
- ・Chromebook (1人1台) もしくはスマホ

4. 実践報告

(1) 生徒の様子・変容

授業では、生徒がスマートフォンに届く変なメールに対して、不審なものは開かないようにするという意識が強まった。これは消費者教育の視点から見れば、個人情報やセキュリティに関する重要な認識が育まれていることを示唆している。また、生徒は普段から広告や怪しいメールに気を付けるようになり、詐欺に引っかからないようにする意識が芽生えた。

授業内で偽サイトや URL に対する注意喚起があり、これによって生徒は自分で判断し、セキュリティを向上させる意欲が湧いたようである。この変容は、消費者教育が生徒らに危険性や注意点を理解させ、自主的な行動を促進した結果と言える。

同様に、授業内で身に覚えのない企業からの連絡や身近な人が被害に遭った事例が取り上げられたことで、生徒は被害に遭いやすい状況やその危険性を再認識した。これは、消費者教育が具体的な事例を通じて彼らにリアルな課題を提示し、危険を回避するためのスキルを身につけさせた成果と言える。

生徒は個人情報の重要性やセキュリティ対策に対する理解が深まり、今後は注意深く行動し、個人情報を守っていく姿勢が強まることと考える。本単元は、生徒が将来のインターネット上での行動に責任を持つための基盤を築く重要な一環となった。

(2) 成果と課題

○成果

消費者教育の視点から見た目標の達成度は高く、授業を通じて生徒が重要な消費者スキルを身につけたと言える。具体的には、以下の点が達成されたと考えられます。

1. 個人情報の保護意識の向上

生徒は、スマートフォンのメールに対して慎重な態度を持ち、不審なメールを開かないようになった。これにより、個人情報の保護に対する意識が向上した。

2. ウェブセキュリティの理解

怪しいサイトや URL に対する理解が深まり、自分で判断し、セキュリティを向上させる意欲が芽生えた。生徒は、危険なサイトやリンクに対して慎重になり、セキュリティに対する理解が高まった。

3. リアルな事例からの学び

授業内で取り上げた知らない会社からの連絡や被害事例を通じて、生徒はリアルな課題に直面し、それに対処するスキルを身につけました。これにより、消費者としてのリスク管理能力が向上しました。

4. 将来への責任感

生徒は、自分の行動に責任を持つ大人への成長に向けた意識が芽生えた。特に、個人情報やセキュリティに対する注意深い行動が将来においても継続されることが期待される。

総合的に見て、消費者教育の視点からの目標達成度は高く、生徒が現代社会における消費者としての基本的なスキルを身につけたと言える。これにより、生徒らは安全かつ賢明な消費者として成長していくことが期待されます。

○課題

自身の個人情報漏洩確認にキャリアのメールアドレスを用いたが、生徒たちにとってメールアドレスの認識が薄く、身近ではなかったと感じた。社会の変容に対応しながら、もっと生徒に身近な例を挙げていく必要があると感じた。

消費者教育授業実践計画書／報告書

実施予定日	令和5年11月6日(月)	
題材(単元)名	食生活をつくる	
実施校	千葉県立東葛飾高等学校	
学年/教科等	第2学年	教科等：家庭
指導者	富永 翔馬	

1. 題材(単元) について

(1) 題材(単元)の設定について

本単元は食に関する学習である。2の指導計画、指導内容を見ると、生徒の身近な生活に関わりの強いものが多く、生徒の興味・関心も大きい分野である。また、身近だからこそ知っているつもりになっているものも多いと感じる。そこで本単元全体を通し、言葉や概念の定義付けをしっかりと行う。加えて、具体物や具体的な事象を積極的に扱うことを意識して指導したい。幅広い食の知識に加え、実習があることも、自分の生活を捉え直す学習を行うには、とても効果的な単元だと考える。

(2) 目標

食事は健康を保ち、元気に暮らすために必要不可欠なものであることは、小学校の家庭科から学んできた。高等学校段階では、さらに詳しく学ぶことでより身についた、活用できる知識にしていきたい。また、食事は栄養のためだけでなく、自分らしい食生活をすることで、生活をより豊かにすることができることを理解させ、知識を深め、実践に結びつけて、食生活を健全に自分らしく管理させたい。これが家庭科、食分野の目標である。消費者教育に焦点をあてると、今まで何となく見たり聞いたりしていた情報に対し、正しい知識をもって批判的なアプローチができるようにしたい。加えて、正か否かの2択でなく、より持続可能な視点や安全面の視点で、消費者として積極的な選択ができるようにしたい。個人の“よりよい”は異なるが、消費者としての“よりよい”を考える場面を多く設定し、消費者市民社会の構築に向けて進めるように指導する。

2. 指導計画

時	指導内容	消費者教育の視点での目標
1	食べるとは何かを考える 自分の食生活を振り返る 朝食欠食の問題を理解する	持続可能な消費の実践を考える
2 (本時)	フードファディズムを考える 健康増進のための食品	消費生活情報に対する批判的思考力の育成
3	バランスのよい食事と食事摂取基準 食生活の変化	持続可能な消費の実践を考える
4	食に関する諸問題とその特徴	持続可能な消費の実践を考える
5	栄養、栄養素の定義 3大栄養素と特徴	商品安全の理解と危険を回避する能力の育成
6	その他の栄養素と特徴	商品安全の理解と危険を回避する能力の育成

	嗜好食品	
7	生鮮食品選択のポイント 栄養成分表示の比較(野菜ジュース) 消費期限と賞味期限	商品安全の理解と危険を回避する能力の育成 消費生活情報に対する批判的思考力の育成
8	調理実習の計画 栄養とライフステージ	生活を設計・管理する能力の育成 持続可能な消費の実践を考える
9	アレルギー食品とその仕組み 食中毒の原因と件数	商品安全の理解と危険を回避する能力の育成
10	調理実習(パスタ)	持続可能な消費の実践を考える

3. 本時

(1) 目標

フードファディズムにとらわれず、食品の安全性や情報の正確性という観点を強く意識し、日々の食事ならびに食品の選択等の場面で、安全かつより豊かな自分らしい食生活を送ることができるようにする。

(2) 展開

時配 (分)	(…) 指導内容・(○・) 学習活動	指導上の留意点 (■消費者教育の視点・◎評価)	備考
3分	○前回の問いを共有する(3分) …前時に生徒がもった疑問を共有する 興味・関心の強いものや、視点が異なるものを 教員が選んで提示する		Excelシート(前時にformから入力したもの)
	○新聞記事を見て感想を共有する(3分) ・「朝食に必ずバナナを食べるようになってからスリムになりました!」について共有する …場面を2つ設定し、1つ目は記事のみ、2つ目は5つ選択肢を提示した後に共有させる		教科書
	○広告を見て感想を考える(2分) …問題点があるという前提の授業ではあるが、生徒が構えすぎてもよくないので、「どう思う?」といったような軽い提示にとどめる	■誇大広告を識別してほしいという思いから、可能な限り現実 にありそうなものを提示する	論文『フードファディズムと健康教育』(2008 高橋)
見出す 15分	○フードファディズムの定義を知る(2分) ・健康や病気に対する栄養の影響を過大に信じる こと、食べものや栄養が健康や病気に与える 影響を過大に評価したり信じたりすること		ワークシート 教科書 書籍『「食べ物情報」ウソ・ホント』(1998 高橋)
	○フードファディズムを“知る”(5分)	■実際の事例を詳細に扱うこと	論文

	・フードファディズムの3タイプとその具体的な例を知る ○フードファディズムを“解く”(3分) ・宣伝広告に潜む、情報の受け取り方についての注意点を知る …冒頭に見せた広告を解説することで、今までもっていた見方との比較をしやすくする	で、より身近な問題として捉えることができるようにする	ワークシート
自分で取り組む25分	フードファディズムに落とし込むための誇大広告・キャッチコピーを作成しよう ○フードファディズムを“使う”(25分) ・フードファディズムのタイプや広告の仕組み、各資料をもとに、作成側の立場でフードファディズムを考える …実際のデータや資料を活用し、被害にあった人数や状況等を把握させることで、世代や性別、性格等を鑑みて具体的にどのような人が情報を信じ込んでしまうのかを考えるよう促す …生徒の進捗状況を把握しながら、称賛する。また、アイデアが浮かばない生徒には、周りとの共有を促す	■消費生活情報に対し、すべて鵜呑みにするのではなく、批判的な視点をもって見たり、考えたりする力を育む ◎人間の心理的・身体的な特徴をもとに、フードファディズムを起こすための広告・キャッチコピーを考えることができる [思考・判断・表現]	ワークシート 情報端末 資料データ 冊子抜粋『2023年版くらしの豆知識』(柏市消費生活センター)
広げ深める4分	○広告を共有する(4分) …ターゲット(世代・性別・特徴など)や落とし込むためにどのような工夫を施したのか、何をポイントとして広告・キャッチコピーを作ったのかを共有させる	※時間がない場合はワークシートを見せ合うだけでもよいので、他の人が作成した広告に触れる時間は設けたい	ワークシート
まとめあげる3分	○まとめをする(1分) …フードファディズムを知り、広告・キャッチコピーを作成する側の視点を受けて、今後の食生活の進め方を考えさせる ○問いの入力を行う(2分) ・本時の問いを入力する		QRコード(form)

(3)使用予定教材・資料等

授業用スライド(PowerPoint)、TV モニター、ワークシート

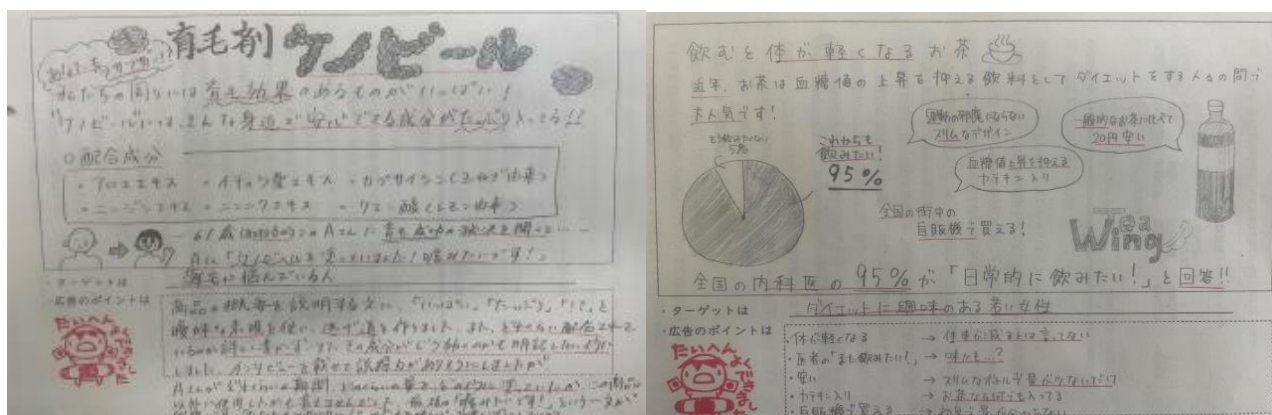
教科書『高等学校家庭基礎』(第一学習社)

参考資料

- 論文 『フードファディズムと健康教育』(2008 高橋)
- 書籍等 『「食べ物情報」ウソ・ホント』(1998 高橋)
『2023 年版くらしの豆知識』(柏市消費生活センター)
- HP 等 消費者庁「事故情報データベースシステム」など
独立行政法人国民生活センター「相談事例・消費生活相談データベース」

4. 実践報告

(1) 児童生徒の様子・変容



(上の写真はいずれも、生徒が作成した誇大広告)

3の本時、展開案にもあるように、活動の中心は自ら誇大広告を作成することであり、いわば消費者をターゲットとして捉えるものであった。そのような視点で物事を考える経験は非常に少なく、始めは戸惑っている様子も多く見られた。しかし、参考 HP の紹介や周りとの共有の促し等によって、ヒントを得、それぞれの商品について説明を加えていた。

添付した写真は生徒が作成したものである(左が育毛剤、右が健康茶の例)。商品のコピーから説明まで、誇大広告の要素(修飾語の使い方や言葉の終わり方、データやロコミ等の記載、商品の効果など)を散りばめており、とてもありそうでひっきりひっきりなものとなっている。この活動を経て、すぐに批判的な思考力や物事を多角的に捉える視点が身につくとは思わないが、情報過多の時代を生きる生徒にとって、意外にも自分の身の回りには怪しい情報や商品等があるのでは。といった疑問符が、普段の生活の中に浮かぶことを期待したい。

(2) 成果と課題

○成果

先の児童生徒の様子とも重なるが、まずは消費者の立場を、事業者側から見る事ができたのが大きな成果である。普段の生活にもその目が広がるとなおよい。また、消費生活分野でなく、食分野で扱うことができたのもとてもよかった。消費者教育が教科を問わず、どの領域や分野でも必要かつ大切な視点だと私自身も強く感じる事ができた。さらに、食分野の後に行った消費生活分野で、悪質商法を扱った際、同様の視点で(消費者をターゲットとする視点)生徒にプレゼンテーションを課した。より、今後の人生において、事業者をはじめ他者の立場から消費者を捉える必要性を考えるきっかけになってくれればよい。加えて、本校の実態として、今回のような生徒個人の創造を求める活動が重要な意味をもつことを改めて実感した。今後の授業構成や計画に活用したい。

○課題

まずは時間配分。結果として、25 分ほど作成の時間をとったが、7 割程度しか終わらず、授業内で全体の共有はできなかった。説明部分の精査もあるが、この活動を続けるのであれば、前後の授業の計画を含め、時間配分を練り直す必要がある。また、今回は作成を印刷したワークシートに記入する形で行ったが、生徒の実態を鑑み、タブレット等の情報端末を使用する形での活動を再検討する必要がある。イラスト等の挿入があるため、どうしても絵や文字、図を描く能力が求められてしまう。そこは今回の主旨とは異なるので、情報機器を活用し、いかに消費者を信じ込ませる情報を提供できるか。そこを考え、深める活動に改善していきたい。